

# 情意形容詞 (adjectif affectif) fichu の意味について

山本 大地

(京都産業大学非常勤)

本発表では、形容詞fichuを取り上げ、その意味を中心に考察する。この種の形容詞はadjectif de qualité (Milner 1978), adjectif intensif (Giry-Schneider 2005), adjectif affectif (Goes et Moline 2010)等、研究者によって様々な名称がつけられているが、一般には次のような統語的特徴をもつとされる。1)程度修飾を受け付けない、2)属詞位置で使用できない(あるいは意味の変化を伴う)、3)名詞の前に置かれる、4)品質形容詞と等位接続ができない。これまでの研究では、こうした特殊な振る舞いを根拠に、通常の形容詞、とりわけ品質形容詞とは異なったクラスに分類されており、そこから意味に関しても十分に検討されることなく品質形容詞とは異なった意味を表すことが前提とされている印象を受ける。ところがよく観察してみると、品質形容詞の意味に類似した側面をもつことも否定できない。実際、Grand RobertやGrand Larousseといった仏仏辞典は、fichuの意味をmauvais, détestableといった品質形容詞で注釈しており、先行研究の扱いとは矛盾する。

このような現状を踏まえ、本発表では以下の主張を行いたい。形容詞fichuは、mauvaisに代表されるような品質形容詞の意味に相当する「評価的意味<sub>1</sub>」を表す用法もあるが、その一方で品質形容詞では表現できない「評価的意味<sub>2</sub>」を表す用法も存在する。この一見よく似た二つの意味を区別することによって、情意形容詞と呼ばれる形容詞クラスの意味的な特徴づけを一步進めることができる。

それに加え、間投詞(より厳密にはjuron)との関連性や、強意語としての性質、名詞句の限定詞の選択に関して形容詞fichuが与える影響、また同じ形容詞クラスに属する他の形容詞(foutu, sacré, satané, maudit, sale...)についても言及し、問題の広がりを示したい。